

Title	情報の経済的特性
Sub Title	
Author	布井知子(Nunoi, Tomoko) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第425号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0425

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0425

学生氏名 布井知子

主査 藤枝省人

副査 太田康信

所属ゼミナール 田中 滋 研

田中 滋

情報の経済的特性

本論の目的は「『情報』と呼ばれている財が他の物財やサービス財と同様に市場で取引されるか否か」の探求であり、この問いへの答えを提示するために、情報取引を阻害する情報の特質と環境要因の考察を行う。ここでのアプローチは「『情報』は社会に存在する知識とそれを主体間で伝達する行為を包括する財」との定義を基礎におく。

第1の阻害要因になりうる情報の特性に、情報の内容である知識の質に関する不確実性と、伝達における排除不可能性があげられる。前者は情報の利用者は解消しえないが、市場が提供する情報供給主体に関する知識をもってこれに対処しうると考える。後者の排除不可能性は伝達主体の選択によって回避しうる。

第2の環境要因に関しては、まず情報や媒体の生産に必要な需要の最小規模が大きいために、社会がある成長段階に達するまでは公的生産に依存せざるをえないが、成熟した社会では情報市場の活性化が求められる点を指摘する。また、従来の情報取引にみられた、情報利用による受益と情報コストの負担のズレが技術や需要の変化により縮小する方向にあり、情報取引が拡大する条件が整備されつつあると推察する。

したがって、「情報は他の財と同じように市場で取引しうる」と考える。